

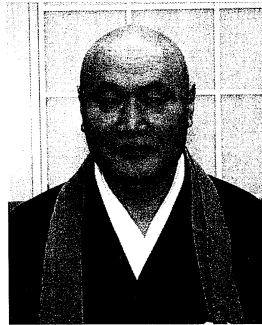
# 市仏連会報

発行所  
 横浜市中区大平町96  
 光明山西有寺内  
 横浜市仏教連合会  
 電話(045)661-0166

## ご挨拶

横浜市仏教連合会  
 会長 川上敬吾

地球温暖化といわれておりますが暖冬の影響で桜の開花も例年になく早く、何か日本列島は少しずつ季節がずれて来たように感じず将来に向って少々不安をおぼえるところで。



四月新年度を迎え市仏連会員の諸大徳におかれましてはそれぞれご法務にご活躍の事と拝します。又日頃は市仏連の諸行事にご協力をいただいておりますこと心から感謝申し上げます。本年の第三十二回涅槃会は当番区金沢区仏教会のご協力をいただき無事円成することが出来ました。金沢区仏教会志村会長をはじめ会員諸師のご尽力のたまものと感謝いたしますとともに会所の長生寺様にも大変お世話に成りましたこと改めて御礼申し上げます。さて本年十一月十九日、二十日の二日間にわたって全日本仏教徒会議神奈川大会が開催されます。十

九日の加盟団体代表者会議に於て市仏連時局対策委員会が数年かけて取りあげて研究してまいりました葬儀の件について、第三分科会にて「現代社会における仏教葬儀のあり方」というテーマで時対の佐藤功岳委員長が提言者となりパネルディスカッションされることになりました。この葬儀に関しては会報六十三号にて葬儀社とのかわりについて記述させていただきましたが、もう少し付けたして仏教葬儀について記してみたいと思います。過日私どもの宗派の住職研修会が実施されましたが、テーマ「葬儀」は葬儀の現状と実態ということでの研修でした。講師として「SOGI」編集長碑文谷創氏の講演(演題は「社会からみた葬儀・これからの葬儀」)をいただいたのですが、ご存知のように碑文谷氏は仏教葬儀について大へん厳しい批判をされます方であり、すくなく現在執行されている葬儀のうち宗教儀礼によって行われている葬儀の九十五パーセントが仏教で、二パーセントが神道、一パーセントがキリスト教、一パーセントが無宗教であることなので、批判の目が仏教葬儀に向けられるのもやむをえぬことだと思えますが、

以下( )の内容について記してみたいと思えます。現在のよう医療の進歩する前は自宅で死を迎えるのが一般的であったが今ではほとんどが病院で亡くなるようになっています。医療現場の変化が葬送の変化を導いている。高度経済成長期には葬式は大型化し、会葬者を多く集めるイベントのようになり外観的には宮型の祭壇が大型化し派手に飾られるようになり会葬者は死者本人を知らない人が七割を占めて平均二、三百人を集めるようになり死者を悔やみ弔うという本来の葬式の機能を逸脱した社会儀礼へ特化してしまつたとのこと。その後バブルの崩壊によって不況の中でデラックス大型化が陰を潜めていき、又且つあつた地域共同体や会社加わつて支援する形態が崩れ個人化が進行し「家族葬」や「自由葬」が行われるようになっていきました。最近では直葬(直接火葬)といつて葬式自体をせずに火葬のみを行うことが出現して来たとのこと。この「チョクソウ」の命名は碑文谷氏が付けたとのことだそうです。家族葬や直葬がふえてくることは一つには家族に葬式のごとで迷惑をかけたくなるとか簡単に済ませたいということ、費用が高額化したことにも原因があるように思われます。それと葬儀式が形式化したような誤解を与えていることも考えられます。甲いのも多様化がますます進んでいくと思えますので寺院サイドとしても安閑としてはいられないところに来ていると思えます。要は遺族の方

## 計報

に信頼されるようそれにはグリーフに実際に応えていくことがたいじなことではないかと思えます。

県宗教連盟理事、事務局長で、県慰霊堂戦没者慰霊法要を永年にわたりお世話いただいた早川教師(横浜バプテスト教会教師)が三月三日に八十六歳で亡くなりました。神奈川県宗教連盟は、県神社庁、県仏教会、県キリスト教連合会などで昭和二十一年(一九四六)より組織され、戦没者の慰霊、アジア諸国の和解、宗教間の相互理解等に尽力してきました。その的存在が早川師であつたと言えます。

四月の神奈川新聞のコラム、デイスクノート欄には「いつもここにこしていて、疲れた心が癒されます」という一般の方からの声を紹介して、早川師の追悼の記事が掲載された。

- 涅槃会担当区予定
  - 平成20年第33回 南・港南区仏
  - 平成21年第34回 戸塚区仏教会
  - 平成22年第35回 鶴見区仏教会
  - 平成23年第36回 西区仏教会
- 県慰霊堂出仕当番表
  - 平成19年6月 南・港南区
  - 平成19年10月 神奈川区
  - 平成19年11月 西区
  - 平成20年4月 磯子区
  - 平成20年6月 港北区
- 総会議長担当区
  - 平成20年第35回 都筑・緑青葉区
  - 平成21年第36回 戸塚・瀬谷区

# 第三十二回涅槃会開催

## 於長生寺 金沢区仏教会担当

平成十九年二月十四日(水)市仏連の涅槃会が開催された。今年の会処寺院は金沢区六浦の浄土真宗本願寺派の寿楽山長生寺(ちょうしょうじ)様で、当日は小雨模様の日候であったが、篤い信心の念でねんごろに厳修された。

金沢区仏教会は、釜利谷地区六ヶ寺、六浦地区七ヶ寺、富岡地区五ヶ寺、金沢地区十二ヶ寺の計三十ヶ寺で構成され、日頃より尊い活動を展開されている。特に区の釈尊奉讃会は多くの会員により、地域に根ざした有意義な取り組みがなされている。

長生寺さんは、元は真言宗の寺であったそうだが、文明年間(一四六九〜一四八六)に、本願寺の蓮如上人が関東遊化された折、時の住職が帰依し、浄土真宗に改宗



したという。六代目の住職は本山本願寺の重要な職に就き活躍した。境内には本堂、客殿など近代的な建物充実しており、様々なニーズに応えた活動の受け皿を備えている。山門横にある名木の「日月星」と呼ばれる椿は、紅白絞りに咲き分ける珍しい品種とのこと。

午後一時半、金沢地区の御詠歌講の方々の鐘の響きとともに、第一部の涅槃会法要が開始された。市仏連副会長長玄野孝善師により開式の言葉があり、専務理事林田眞成師の進行により、一同三礼、三帰依文の唱和に続き、導師市仏連会長川上敬吾師により啓白文が丁寧に奉読された。観音経普門品偈、舍利礼文の読経、御詠歌の奉詠中に、奉讃会の方々による代表指名焼香、一般廻し焼香が行われ、回向・三礼と続いて法要は終了した。

なお、脇導師は金沢区仏会長、金龍禅院住職志村碧崖師と会処長生寺住職六浦弓丸師、式修は金沢区仏教会の諸師であった。

二部の式典に入り、はじめに川上市仏連会長の挨拶では、プロゴルファーの尾崎将司選手が毎朝、懺悔文を読んでいることを紹介され、人は気がつかないところで人に迷惑をかけていることを反省することの大切さを説かれた。続いて美濃口久義釈尊奉讃会副会長が、日頃の市仏連、奉讃会行事への参

加協力の御礼を述べられた。また、神奈川県仏教会長横山敏明師からは、仏教徒は常にお釈迦様のお教えを振り返り実践していく中に、家庭・社会・世界の平和につながる道があると話され、今年の秋に行われる全日本仏教徒会議への参加を呼びかけられた。

そして、長生寺住職六浦弓丸師により、ひろさちや先生がご紹介され、先生には一時間余ほどの講演を終始ユーモアを交えつつ、

### 講演録 「お釈迦様のメッセーじ」

宗教思想家 ひろさちや先生

「そのまんま、そのまんま」、これがお釈迦様のメッセーじだと思っております。そこでその頭に、「南無」をつけて「南無そのまんま、そのまんま」とみんなでお唱えしましょう。



諸法実相  
法華経の中に、「諸法実相」という言葉があります。これはお釈迦様のメッセーじの要約であると思っただけならば良い訳なのです。この諸法実相ということです。味噌も糞も一緒ということです。

一貫したお釈迦様のメッセーじをお伝えしたい。

最後に植田清司釈尊奉讃会副会長よりお知らせがあり、閉式のことばを市仏連副会長山本信行師より、二十一世紀は仏教の時代である、益々の信仰を深めていただきたいと閉めくられ散会となった。

その後の懇親の席では、長生寺前任職様のユーモアあふれるお話に一同、和やかな気持ちにつつまれ無事円成した。

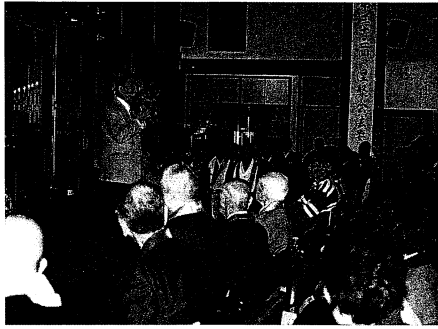
「味噌は良くて、糞は悪い」のではなく、「味噌は味噌で最高なんだ」と同時に、「糞は糞で最高なんだ」と、しっかりと糞に手を合わせて拝む。これが「諸法実相」なのです。諸法の法とはものという意味。あらゆるもの、そのすべてのものでそのままで最高なんだ、ということが諸法実相なのだと思ってください。

ほんとうの慈悲  
お釈迦様の時代に、コーサラ國の舍衛城というところに一人の女性があった。その女性の子供が突然亡くなってしまふ。彼女はその子供の死体を抱えて、「どなたかこの子供の生き返る薬を作ってください。」と、狂ったように町の中を走り回っているが、誰もどうしてやることも出来ない。ちょうどそこへお釈迦様が托鉢にこられた。そしてその女性をみて、「女よ、

それじゃあわたしがその薬を作つてあげよう。」というんです。彼女は喜んで「お釈迦様、是非お願いします。」「じゃ、すぐ薬を作つてあげるから、その薬の材料になるからしだにを買つておいで。ただし、そのからしだに(ほ今まで一度も死者を出したことのない家から買つてきなさい。)、と、そう条件をつけられるのです。インドではからしだ(ど)は、香辛料として使う、日本でいうお醤油みたいなもの。ところが、どの家を訪ねても死者を出しているのですね。そのうちに彼女はすつと訪ね歩いていき、そして、お釈迦様のところに戻ってくる。「女よ、からしだねを買つて来たかい?」「お釈迦様、もうわたしにはからしだねはいりません。この子を、もう死んだまま安らかに眠らせてやりませ」と言つた。というお話がお経の中に伝わっております。

お釈迦様は彼女にこの諸法実相を教えようとしたとわたしは解釈しています。実は、彼女は後に出家して尼僧になっています。お釈迦様は、「いいかい、生きてる子供は生きてる子供で最高なんだ。同時に死んだ子供は死んだそのままで最高なんだ。死んだ子供を死んだ子供のまま愛せる。それが本当の慈悲なんだよ」と教えられたのです。これが諸法実相ですね。

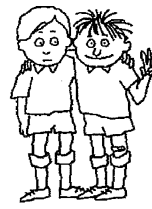
優劣の縁(えにし)  
生きてる子供は良くて死んでいる子供はダメだ。という考え方は、同時に世間のものさしでは、



優等生はいけれども劣等性はダメだという考え方になってしまいます。しかし、お釈迦様のメッセーヂは誠に「そのまんま、そのまんま」です。私たちは、優等生がいるおかげで劣等性が出てくるという縁(えに)があつて生きているんですね。ピリがないことにはトップは出て来れないのです。皆さんは蟻(あ)つて真面目に働いている動物だと思いませんか？ そう教わつてきましたよね。しかし、昆虫学者に聞いたらそうではないそうです。大体、蟻のうちで真面目に働いているのは二割なんです。あとの八割はちよこまかちよこまか動いているだけで、何にもしていない。で、こんど怠け者ばかり集めてきて集団を作つた。そうするとそのうち二割が働き始めたつていうんです。これ縁なんですね。

鰻(うなぎ)の稚魚を「しらすうなぎ」つていいます。カナダから買つてくるのですが、繊細な動物ですから

大体八割が九割、輸送中に死んでしまふのだそうです。物は試しに、その稚魚の中に鰻を入れたのだからです。すると、二割は餌になつて食べられていたのですが、残つた八割は敵がいることでピンピンしていたというのです。これが縁の世界なんです。



思うままにならない

ある青年が、「先生、僕は引きこもりになつてしまつたんです。どうしたらいいでしょう。」と相談してきました。わたしは、「あなたね、せつなく引きこもりになつたんだから、もうしばらく引きこもつてみたらどう？ 面白いって途端、その青年ニコツと笑つたんです。大抵の人は引きこもりはよくないと言ふ。でもね、治らないから悩んでいるんですよ。病人である間は病氣になつて「南無そのまんま、そのまんま」と、こう思つていれば良い訳です。それを焦れば焦るほど、かえつて病氣の治りは遅いのです。治る時、治るんだから。わたしたちは、その苦しみを無くそうとするから返つてしんどくなるのです。

お釈迦様は、老病死が苦しみだといわれました。しかし、元の言葉の意味を調べてみたら、びつくりしました。結局、苦しいという意味ではなくて「思うままになら

ないこと」という意味だつたのです。思うままにならないことを、思うままにしようとして苦しんでいるんです。だから、先回りして中国人が「苦」と訳したのです。ですから、お釈迦様の教えは、「思うままにならないを苦にするな」ということです。思うままにならないことを、思うままにしようとしなければいけません。

人生老死号

私たちは、「人生老死号」と名づける列車の乗客だと思つてください。で、この老死号つていうのは、老いと死にむかつてまっしぐらに進んでいく列車ですね。するとそれぞれの人にこつそりと声が聞えてきます。「おい、お前ね、次の駅で降りなさい」とつて。そして「もうわたしは次の駅で降りろと言われたもので、そろそろおいとまします。残られた皆さんは、どうぞ快適な旅を続けてください。」と言つて、皆にお礼を言つて降りていく。これが一つの布施ですね。なぜかという、その席が空くんです。そうすると誰かが腰掛けることが出来るんです。そして、その降りた駅の隣には、ちゃんと仏号という接続列車が待っている。そして、まっしぐらに仏様の国に運んでくれる。

そういう接続列車が待っているのだから、わたしたちが降りるべき駅で降りる方が良くと思うんです。臓器移植の問題は、世界にいろいろな問題を投げかけ、非常に難しい問題ですが、わたしはお釈迦様のメッセーヂの立場からする



と、大反対なのです。わたしたちのこの命は自分の命じゃない、仏様からお預かりしている命だと思つて欲しいのです。

仏様からの預かりもの

皆さんのお子さん、自分の子は俺の生んだ子供だと思われていますね。昔の人は、この子は仏様から授かった子どもなんだと言つていたのですが、授かった以上はわたしのものと、所有権を主張されるも困りますから、私は、仏様から預かつている子供と言つております。そのお子さんの中にはいろいろな子がいます。そのまんまが最高のお預かり物だというのが、仏様のメッセーヂなのです。

そのまんま、そのまんまという背景には「何だつて良い」という哲学があります。でも、何だつていいものと、何だつてよくないものがあります。どこで区別をするのかといつたら、人間の努力で獲得できるものは何だつて良い訳じゃない。仏様からのお預かり物は何

でもいいんです。そうすると、みなさんがお預かりになつたお子さん、あれは仏様からのお預かり物だから、どんな子供でもそのお子さんが素晴らしいんです。それを、あの子の方がいい子だ・・・。取替えきまますか？皆さんの身体も預かつているんです。何だつて良いんです。自分を好きになる

そして、仏様から預かつているこの自分を好きになることです。と同時に、皆さんが預かつておられるお子さんを好きになることです。さらに、ちよつと言わしていただくならば、皆さんのあの程度の亭主・・・(笑)。あれも仏様からのお預かりもの。しょうがないじゃないの。そう思つてみんな預かつていくんですね。

親御さんがそうですね。親もボケるかもしれない。認知症になるかもしれない。でも、それも仏様がそうされるんだ。仏様から預かつているものだと思つていただきました



いんです。だからまず自分を好きになり、同時に、相手そのまんなまを好きになる。

仏教の話をするときにはBA型で考える。血液型はAB型。BA型というのはBefore and After。前と後。だから、失敗する前には失敗するなどいふべきですね。失敗したあとだったら、失敗してよかったね。それが慈悲の言葉なのです。落第した子供に、落第してよかったね、もう一年余分に勉強できるじゃないかと。そういうふ

# 秋の仏跡参拝旅行

## 九州大分・阿蘇方面

昨年の秋の仏蹟参拝旅行が、十月三十一日〜十一月二日に、「九州仏蹟参拝と国東半島石仏の旅」と題して、大分県、阿蘇方面に向けて行われた。

秋晴れの暖かな大分空港に降り立ち、国東半島に向けてバスに乗り込む。国東半島は、石仏の宝庫、仏国土とも呼ばれ、古い歴史を持つ寺院が多い。ほとんどが天台宗というのも特徴的だ。

はじめに訪れた富貴寺では、古い石仏群が迎え入れてくれ、苔むした境内はいかにも古寺の風格を漂わせている。国宝の大堂（本堂）は、かつて当地にあつた樞（かや）の太木で建てられたと言われている。四方の壁面には白色を基調とした壁画が見事に描かれている。この壁画を保護するために、正面の南側に扉がなく、脇から暗い堂

うになぐさめる、これが慈悲の言葉ですね。

人間はお前を否定された時に辛いですよ。「お前がお前であつてはいけない。」といわれた時にどうしますか？私たちが子供にそう言っているんです。「あなたはあなたであつてはいけない。」と。

どんな場合でも「南無そのまんま、そのまんま。」これが仏様のメッセージだと知っていたのだと思います。（要旨抜粋）

内に入る造りも特色がある。

続いて、独特の岩峰が美しい溪谷、耶馬溪を訪れた。この付近の青という地区に、有名な「青の洞門」がある。菊池寛の小説「恩讐の彼方に」で一躍有名になったトンネルである。この小説は、江戸



時代に禅海和尚という僧が、この地の岩壁に、村人の安全通行を願つてトンネルを掘つた史実に基づいて脚色されたもの。小説は、史実とはかなり違うが、禅海和尚の不撓不屈、意思貫徹の精神は高く評価されており、小学校の道德の教科書にも取り上げられている。

耶馬溪の川面は穏やかであるが、この地は、奥に五百羅漢を祀つた羅漢寺があり、その参詣にはどうしてもこの岩壁を通らなかつたわけである。実際には、

禅海さんは一人で掘つたわけではなく、各地の大名から資金となる寄付をかなり集めて工事を進めたとのこと。三百メートル余の長さ

を三十年近くかけて完成させたといひ、地域では英雄としてあがめられてゐる。現在、この洞門は一部を除いて、大きく掘り改められ自動車も行き来も多い主要道路となつてゐる。見学路には、ところどころに当時の明かり取りと土砂捨ての窓が空いている。岩壁上部に残る古道には、現在、鎖が取り付けられていて通ることもできるが、正に命ガケである。

史実の禅海和尚は、湯布院の曹洞宗興禅院で得度をしたと言われている。今回の旅で訪ねてみたが、境内には禅海和尚と妻お弓の像が立っていた。大分には、このような史実と伝説の仏蹟が多くある。

続いて一行は、羅漢寺（曹洞宗）を訪れた。安山岩の岩山と言われる岸壁に、入り込むように建物が造られ、ここまで登ってくるのは大変なこと。信仰の深さを感じ



れる。現在、参詣にはリフトが利用できるもので有り難い。山の中腹には七百余もの、石の五百羅漢像がぎっしりと並んでいる。この中には、必ず自分に似ている人、亡くなつた人に似ている顔があると

言われて、昔から信仰を集めたようだ。ここは、中国の霊山にも似た信仰の山と溪谷である。

一泊目の宿は別府温泉。流石に湯の町、あちらこちらから湯煙が上がっている。翌日、海地獄、坊主地獄、みょうばん温泉などをめぐり温泉情緒を満喫した。

二日目の圧巻は白杵の石仏である。この代表的な仏頭（大日如来像）は、数年前までは首の部分から下に落ちていたというところだが、見事に復元されていた。見学路も良く整備されている。以前は、屋根もなく風化にまかせていたそうだが、近年、堅固な屋根と柱で覆われ、監視カメラなどセキュリティも万全だ。この石仏群は、磨崖仏（まがいはづ）と呼んで、岩盤に直接浮き彫りした仏のこと



最終日に阿蘇山を訪れたが、あいにく亜硫酸ガスが発生して山頂の見学は出来なかつたものの、一面に咲くススキの穂で覆われた広大な秋の大自然に心洗われる思いで熊本空港をあとにした。

美しい自然の中に点在する数々の仏蹟に、古の信仰の心が感じとれたこの度の参拝であつた。

- （参加寺院、七ヶ寺・三十一名参加）東照寺・長昌寺・松陰寺・東泉寺・西福寺・妙光寺・見光寺

<p>横滨市仏教連合会常務理事 西区仏教会長 曹洞宗萬徳寺住職</p> <p>横 山 正 彦</p> <p>〒220 0031 西区宮崎町三二 電話二四二一四五三三</p>	<p>横滨市仏教連合会常務理事 南・港南区仏教会長 曹洞宗興禅寺住職</p> <p>市 川 智 彬</p> <p>〒232 0007 南区清水ヶ丘二二五 電話二二二一七五九〇</p>	<p>横滨市仏教連合会常務理事 磯子区仏教会長 高野山真言宗大聖院住職</p> <p>鷺 雄 興 勝</p> <p>〒235 0055 磯子区東町六一二〇 電話七五一〇六七二</p>	<p>横滨市仏教連合会常務理事 瀬谷区仏教会長 臨済宗建長寺派長天寺住職</p> <p>三 田 裕 道</p> <p>〒246 0013 瀬谷区相沢四一四一 電話三〇一一二六八八</p>
<p>金沢区仏教会副会長 真言宗御室派正法院住職</p> <p>友 繁 照 純</p> <p>〒236 0041 金沢区釜利谷町四三一三 電話七八一―二四八四</p>	<p>金沢区仏教会副会長 浄土真宗本願寺派長生寺住職</p> <p>六 浦 弓 丸</p> <p>〒236 0031 金沢区六浦二一八一二 電話七〇一―八一二六</p>	<p>横滨市仏教連合会常務理事 港北区仏教会会長 日蓮宗妙蓮寺住職</p> <p>山 本 玄 征</p> <p>〒246 0006 瀬谷区上瀬谷町八一三 電話三〇一―二九八九</p>	<p>横滨市仏教連合会会計担当 日蓮宗妙光寺住職</p> <p>秋 山 智 謙</p> <p>〒246 0006 港北区菊名二一―一―五 電話四三一―四四四一</p>
<p>横滨市仏教連合会会報担当 曹洞宗東泉寺住職</p> <p>関 水 俊 道</p> <p>〒245 0017 泉区下飯田町七四三 電話八〇二―一八〇九七</p>	<p>横滨市仏教連合会会報担当 真言宗豊山派西福寺住職</p> <p>備 前 恭 忍</p> <p>〒246 0037 瀬谷区橋戸三一―二―二 電話三〇一―六一三四</p>	<p>横滨市仏教連合会顧問弁護士</p> <p>遠 藤 隆 也</p> <p>〒221 0022 (自 宅) 神奈川区白幡上町一八一三 電話四三二―一六一九二 〒110 0015 (事務所) 台東区東上野二一―一八一七 電話〇三―八三三―二八一九</p>	<p>横滨市仏教連合会御用達 株式会社エヌ観光神奈川社長</p> <p>真 川 明</p> <p>〒240 0022 保土ヶ谷区西久保町一―四 公園ハイツ二―一―一八 電話三三四―三三〇〇</p>

神奈川県仏教会会長  
横浜市仏教連合会顧問  
曹洞宗西有寺住職

横 山 敏 明

〒231 0859 中区 大平町 九六  
電話 六六一〇一六六

横浜市仏教連合会顧問

法華宗陣門流勸行寺住職

都 築 哲 信

〒220 0002 西区 南軽井 沢 九  
電話 三一一三三五七

横浜市仏教連合会会長

臨濟宗建長寺派松蔭寺住職

川 上 敬 吾

〒230 0077 鶴見区東寺尾一―一八―一  
電話 五七一―二七〇一

横浜市仏教連合会副会長

曹洞宗長昌寺住職

玄 野 孝 善

〒241 0822 旭区さちが丘五五九  
電話 三九一一三三七九

横浜市仏教連合会副会長

都筑区仏教会長  
高野山真言宗長王寺住職

山 本 信 行

〒224 0053 都筑区池辺町二八二七  
電話 九四一―一三六七

横浜市仏教連合会会計担当

浄土宗浄念寺住職

橋 下 賢 明

〒234 0056 港南区野庭町六四三  
電話 八四二―七二八八

横浜市仏教連合会専務理事

浄土宗見光寺住職

林 田 眞 成

〒240 0004 保土ヶ谷区岩間町二―一四〇  
電話 三三一―〇六〇七

横浜市釈尊奉讃会事務局次長

曹洞宗東照寺住職

程 木 昭 徳

〒223 0053 港北区綱島西一―十三―十五  
電話 五三一―一七八三

横浜市仏教連合会監事

浄土宗宝心寺住職

丸 地 良 信

〒245 0016 泉区和泉町三一九三

横浜市仏教連合会常務理事

栄区仏教会長  
高野山真言宗般若院住職

星 野 英 秀

〒244 0842 栄区飯島町二―一四九  
電話 八九一―一七〇一

横浜市仏教連合会常務理事

神奈川区仏教会長  
曹洞宗本覚寺住職

守 長 尚 文

〒221 0057 神奈川区高島台一―二  
電話 三二二―〇一九一

横浜市仏教連合会常務理事

緑・青葉区仏教会長  
高野山真言宗萬藏寺住職

河 本 岡 文

〒226 0012 緑区上山二―一五―二  
電話 九三一―一五七三

時局対策委員会報告

後顧に憂いを残さぬために

時局対策委員長 佐藤 功 岳

仏教葬儀はご案内のように最初は寺院で行われ徐々に自宅葬に移り、昭和五十年頃から葬祭場での葬儀が始まったと思います。

当初は自宅葬と同様の形態で行われておりましたが、徐々に形態の変化が始まりました。司会者が登場し、読経の最中までマイクは焼香の案内をし、厳肅なる祈りの場面は雲散し亡き人を悲しむ追悼の心は霧消させられ、読経を通じた仏道を修行する連帯感破壊され始めました。

しかし、性善の仏教徒は善意の部分だけを受け止め底辺に流れていた商業第一の運営方針を看過してしまいました。このことが今日の問題の始まりと理解しております。

更に月日が流れると、商業第一主義で運営された葬儀は、「ともに祈る」という場面を侵食し、一刹那の焼香だけで長時間に亘る真剣な読経の全てに代えることが出来るという、増上慢の人々を増産へと誘導しました。部屋が異なっているため遺族の悲しみ・追悼の気持ちは共有できる訳もなく、ひどい時には宴会場と化するのもしばしばです。こうした現象は小生の経験によれば昭和五十五、六年こ

ろから加速してまいりました。

また近年仏教界の考えと反して「告別式」と称する式が横行しております。「告別式」の由来はご存知のとおり宗教否定の式であり誠に無礼なことでありまして。向かい合わせに席を設け、施主は祭壇に背を向け、下座に設けられた一般焼香の脇に着座し、大事な方への心からの祈りを捧げるべく行う葬儀の貴重な時間も、お祈りもせずに一般用問答への挨拶ばかり、本末転倒を絵に描いたようです。

正に宗教不在、前述のような布教を旨とする場面とはとても考えられない運営となっております。このことは業者ばかりでなく寺院側にも大いに反省すべき点と考えております。信仰の篤い僧侶であればこうした矛盾には断固行動が伴うと存じますが、残念なことに放置され今日に至っております。

視点は変わりますが「コトダマ」(言葉)の如く宗教儀礼は言葉を大切にしております。声明・讚や経文と悉く言葉により信仰を表しております。この言葉なくして私どもの思いをどうしてみ仏に届けられましようか。従って言語の確実なる検証は当然行われるべきことであり、軽々に変更すべきでないことは自明の理であります。つ

いつい新しい言語を使えばその人の学識の豊かさが増すと考え違いをして返って恥をさらすこともままあります。こうした言語を大切にしない風潮は、言語によって成り立っているマスコミにも存在しており、日本全体に蔓延しているかと危惧しております。片方では読経中の僧侶が映し出されている画面でキャストが「〇〇ちゃんもこれで天国へいけるでしょう!」

と言うような報道がしばしばオンエアされています。「葬儀」を「告別式」と言い換えているのもその程度の理由かと考えますが。さて、宗教はそれぞれの文化を形成しております。仏教は仏教の、キリストはキリストの文化があります。そして他の宗教文化・儀礼が融合するには教義的な裏付けが必要なことと言うまでもありません。

しかし今日行われつつあるエンバミングと称する遗体保全技術は、火葬が主流の日本では何をもち

て必要とするのでしょうか。仏教の葬儀の中にキリスト教教義に立脚したエンバミングが必要なのでしょうか。どのような理由をこじつけても仏教には不要の処置です。そのうえ遺体を傷つけ防腐剤を注入して保存技術を駆使しても、葬儀の三十分後には火葬されてしまうのです。

このように仏教文化を無視した商業第一主義のサービスは、大事な人を失い看病や過労で正常な判断力を消失した施主を困惑させるばかりか、費用もかなり増加するため菩提寺とすれば当然心配するところのほずです。

もつと大事なことはこうしたデリバリー坊主の場合は僧侶の使命たる信仰心育成が往々にして出来ないということとです。ご承知のように信心というものは一朝一夕には深まらないということです。たつた一回の葬儀という機会があったとしてもそれで悟りに近い境地にまで達するということは不可能でしょう。一回や二回で悟れるならば安居は不要と言うことになりま

す。何年にも亘ってお寺の行事に参加しつつ、霜雪を重ねて漸く御仏の仰っておられたことが少し納得出来、培った信仰心によって抜苦と存じます。言葉は重なりませんが信仰を深めていくためには時間が必要なのです。ここで行動を起こさなければ後顧に憂いを残し、法孫に多大なる誇りを受けることとなるでしょう。



歳末理事会

平成十八年十二月十九日、午後五時、中華街「華正樓本館」で、市仏理事会が開催され、二十二名の出席があった。(1)第三十二回涅槃会は平成十九年一月十四日(水)に金沢区仏の長生寺で開催し、講師には宗教思想家のひろさちや氏を予定。(2)総会日程、平成十九年五月十六日(水)午後二時、西有寺にて。総会議長は保土ヶ谷地区、鶴見区。(3)秋の仏跡参拝報告。(4)春の仏跡参拝、平成十九年六月十八日(月)に秩父の札所の四万部と廣見寺へ。旅費九千円。(5)泉慰霊堂奉仕の件。(6)涅槃会担当区の件、戸塚、瀬谷、中、金沢、栄区仏会長で構成。(7)時局対策より報告の件。(8)泉仏会長横山敏明師挨拶。平成十九年十一月十八日(月)全日仏神奈川大会の件。(9)市釈尊奉護会存続テコ入れの件等。



緑・青葉区

当会では、一月二十日(土)新年一日バス参拝旅行として、南足柄大雄山最乗寺様をお参りさせていただきました。檀信徒を中心に六十名ほどの参加があり、バス二台と盛会でありました。

道了さんとして親しまれる最乗寺様は、時折小雨に白いものが混じる寒さの中ではありませんが、季節柄初詣客で賑わっておりました。又、本堂ではご住職に縁起をはじめ新年にふさわしいご話を頂くことができ、参加者皆様に喜んでいただくことができました。境内をしばらく散策した後、箱根湯本ホテルおかだへ移り、昼食会と日帰り入浴を楽しみました。さらに、箱根神社参拝、小田原風祭・鈴廣でお土産休憩をし、帰路につきました。

隔年で開催している恒例行事であります。県内という身近なところで大自然に囲まれた清々しいお参りができたと思っております。又、行程に余裕があったことも好評でありました。

尚、平成十九年の花まつりは、五月六日(日)午後二時から、緑区鴨居・林光寺様を会場に行います。法会・准仏の後、詠歌奉納・落語・大道芸などを予定しています。

戸塚区

裏山でうぐいすが鳴いている。境内の椿がすでに満開、花ざかりである。四月八日の花まつりに、御堂を飾る椿花が残るだろうか、と心配している。戸塚区の仏教会の花まつりも四月六日に実施する会所は親縁寺である。私は会長でありながら充分な責任を果せないままずると四年間すこして来てしまった。まったく自分を恥るしだいである。地域の町内会会長や連合町内会会長などずると引受けてしまった結果が日々の忙しさをまねき地域の仕事もつぱら優先することになり、市仏界の各種の会合など出席出来ないはめになった。これも私の不徳のいたす所なので誰もうらむことは出来ない。五月には区仏の総会があるが、四年間の会長職を辞任する予定である。戸塚区三十八ヶ寺の皆様には迷惑をかけてしまったと思う。身体も腰痛に悩まされて苦勞している。次の会長に期待するしかない私より若い積極性のある任職だから。人望あり、若さあり、の元氣印である。

保土ヶ谷・旭区

保土ヶ谷旭区仏教会では、任期満了に伴い平成十八年度より新会長を始めとして新役員が編成されました。前年度の行事を引き継ぐ形で活動を行っています。平成十八年に行われた行事は次の通りです。

- 花まつり (18・4・3)
- 春の仏跡参拝 (18・5・8)
- 秋の仏跡参拝 (18・11・6)
- 成道会 (12・5)

○歳末助け合い托鉢 (18・12・19)

花まつりは浄土宗・見光寺様に行われ、一六〇余名参拝され盛大にお釈迦様の誕生をお祝いし、法要後は女優の藤村志保さんにお話を頂きました。成道会は曹洞宗・随流院様で修行。法要後は幡蔵寺・村松俊明様のお話に一四〇余名が聞き入りました。春の仏跡参拝は曹洞宗の名刹、忠臣蔵の寺である泉岳寺や同宗江戸三ヶ寺の一つ青松寺へ参拝させて頂いた後、東京タワーを見学しました。秋の仏跡参拝では群馬県沼田市の臨濟宗吉祥寺様へ参拝、静かな趣のある境内を散策後、吹き割の滝を見学しました。年末に行われました歳末助け合い托鉢では、保土ヶ谷駅、天王町駅、二俣川駅それぞれの街頭にて淨財喜捨をお願いいたしました。毎行事、多くの方が参加し仏縁を結んでおられます。

港北区

港北区仏教会では、年度の締め括りである総会を三月四日に開催いたしました。会長挨拶の後、無事、会計監査を頂き、活動報告に移りました。今年には会長改選初年度でありましたが、四月一日の花祭りでは、会員の皆様には馴れない故の手次第で、ご迷惑をお掛けしながらも、蓮勝寺、柴田哲彦上人による法話や、当会会員の永昌寺様の御取計らいもあつて柳家喬太郎師匠をお招きする事が出来、一三〇名を越えるお客様で大盛況のうちに何とか無事成功を取める事が出来ました。また、六月十五日には当会の花祭りと並ぶ行事の二本柱である研修会を全日本仏教会顧問弁護士、長谷川正浩先生をお招きして開催いたしました。十月十一日には、港北区内戦没者慰霊祭に出席させて頂き、他にも港北区観光協会や社会福祉協議会への参加など地域とも密着した活動を行って参りました。その後、議事では、今後のより良い会の運営にまつての活発な意見交換がなされました。本年度は第四十回全日仏神奈川大会関連等の臨時役員会の開催も多かった事もあり、総会の後の新年会では、すっかり打ち解けた雰囲気一年を振り返ることが出来、会員一同で今後のより一層の発展を誓い合いました。

事務日誌

- 18.10.5 慰霊堂出仕瀬谷区
- 18.10.12 弔電金沢区
- 18.10.25 役員会議通知出し
- 18.10.31 秋の仏跡参拝(九州石仏の旅)
- 18.11.5 慰霊堂出仕都筑区
- 18.11.7 弔電金沢区称名寺
- 18.11.16 時局対策委(大圓寺)
- 18.11.27 涅槃会打合(金沢区)
- 18.12.15 役員会(勸行寺)
- 18.12.19 理事会忘年会(華正楼)
- 19.1.17 涅槃会案内送付
- 19.2.14 第32回涅槃会(長生寺)
- 19.2.17 選考委員会案内送付
- 19.2.17 会報64号原稿依頼
- 19.2.24 第一回選考委(サンアリーナ)
- 19.3.2 第二回選考委(東福院)

編集後記

◎日本の仏教はお釈迦様の仏教とはかけ離れたもので仏教といえるのかという指摘が昔からある。江戸時代の富永仲基の大乗非仏説や明治時代の原典研究至上主義者等。最近では或る葬祭業者が坊さんは本来葬儀に携わらなかつた。破戒の坊さんが偉そうに何を云うか。破戒律典には比丘は比丘の葬儀をした在家の葬儀は禁じていたとある。日本では仏の大慈悲が死者をまのあたりにして絶望の極地にいる人を救う平等の実践発露として回向となつていったと思われる。授戒をし、僧の資格を与えて引導を修する事で死者と遺族のケアに積極的に対応してきた。

◎三月二十五日に石川県能登地域で震度六強の大地震が発生し、死者一人、負傷者最多多数で激甚被害と認定された。神社寺院合計六〇〇が倒壊の大被害にあい壊滅状態との報道を暗澹たる思いで聞いた。





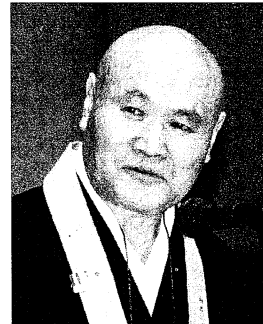
# 市仏連会報

発行所  
 横浜市中区大平町96  
 光明山西有寺内  
 横浜市仏教連合会  
 電話(045)661-0166

ご挨拶

横浜市仏教連合会  
 会長 川上敬吾

お盆、そして秋彼岸の諸行事も無事つとめられたこと存じます。会員諸大徳におかれましては寺門興隆のため日々精進されておられることと拝します。



それにつけても今年のお盆、特に八月と秋彼岸の暑さは格別でした。棚経なども暑さで大へん苦労されたことと思います。これもみな地球温暖化の現象のなせることと思えますが、最高気温が四十度を越すところが多く出たことでも今年の暑さは尋常ではなかったと思えます。上昇した海水温、海産物が大量死などのニュースも耳にし、又、テレビの放映などで北極の水がとけて崩れて海中に流れ出すさまや、ヒマラヤの水河がとけだして後退していく姿や、ツバルのように海抜の低い国が海面の上昇で住民が島を離れることを余儀なくされる姿を見るにつけ、一國が海面下に沈んで消えてしまうか

もしれないということは誠にゆめしきことだと思えます。

人類が豊かな生活を求めていくうえで、欠かせない経済発展のために物づくりをどんどんおし進めていった結果、工場から排出される汚染物質によって大気汚染が拡がり、産業廃棄物が次から次へと大量に出すことにより環境を悪化させた結果であり、これをくいとめることが今まさにとわれていることだと思えます。いわゆる先進国が豊になったその代償として地球環境を破壊してきたのははつきりしており、今それが地球にとつて大変なことになってきているのにやつと気付いて来たのだが、憂慮するのは発展途上国が、今、先進国の後を追って同じように豊かさを求めた結果、環境破壊をもたらしていることである。

振り返って国内ではどうかというところ、たしかに経済の発展はすさまじく生活も便利さと豊かさはかなりのものとはなったが、大都市周辺では田畑、森や林は次から次へとつぶされ開発されて、巨大団地やマンションが林立し豊かな緑は失われ自然は破壊され最悪の環境となつてしまつたが、今なお破壊が進んでいることには早急に歯止めをかけるなければと思ひます。

街には早かあふれ排気ガスが充満し、必要以上に無駄なエネルギーを消費し益々地球温暖化に手をかしているのが現状であり、自分たちだけのことしか考えない人間のエゴが温暖化を招いてしまったのではないかと思ひます。昨今、共生という言葉をよく耳にするがまさに自然との共生が今こそ必要不可欠ではないのかと思う。今地球がどうなっているのか、何をしなければいけないのか考えようという気運がおこつて来ているのも事実です。

リサイクルや節電、安易な車生活の反省も必要でしょうし、資源の無駄づかいをせぬよう努め物を大切に、もつたいないという心を持つことも必要と思ひます。人間一人ひとりが地球環境を大切にするとこの心を持っていくのが宗教者の役割ではないのかと思ひます。現在も将来これから未来永劫地球環境を守るため、そして人間の安心、安全を保障するためにも意識の改革の教育が待たれているのではと思ひます。

市仏連役員名簿	
名譽会長	大道晃仙
顧問	志村慎吾
顧問	滝川覚道
顧問	横山敏明
顧問	齋藤隆法
顧問	都築哲信
顧問	福永昭吾
副会長	川上敬吾
副会長	玄野善行
副会長	山本信成
専務理事	林田真成
會計	橋下賢明
會計	秋山智謙
會計	備前恭忍
會計	水俊道
監事	佐藤功岳
監事	福田俊光
監事	佐伯隆義
理事	各区仏会長
鶴見区	智廣寺 橋本正博
神奈川区	本覚寺 守長尚文
西区	萬徳寺 横山正彦
中区	大圓寺 佐藤功岳
南・港南区	興禪寺 市川智彬
保土・旭区	香象院 四之宮弘孝
磯子区	大聖院 鷲雄興勝
金沢区	金龍院 志村碧崖
港北区	妙蓮寺 山本玄征
都筑区	長王寺 山本信行
緑・青葉区	萬藏寺 河本問文
戸塚区	雲林寺 北見秀明
瀬谷区	長天寺 三田裕道
泉区	無量寺 小川豊彰
栄区	般若院 星野英秀

## 区仏会長名簿

# 第三十四回総会開催

平成十九年五月十六日(水)、横浜市仏連総会が西有寺で開催された。午後二時すぎ、玄野孝善師当会副会長の開会の言葉に引き続き、川上敬吾師当会会長の挨拶をいただいで、議長選出に入り、南・港南区仏会長・市川智彬師が議長に坐り、役員2/3以上の出席があり、総会が成立と宣し議案審議が進行した。

議案(一)、平成十八年度事業報告を林田眞成当会専務理事がした。

議案(二)時局対策委員会よりの報告を佐藤功岳副会長がした。

議案(三)平成十八年度決算報告を秋山智謙当会会計がした。

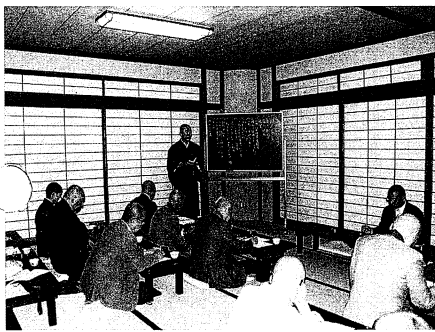
議案(四)会計監査報告を丸地良信当会監事がした。

議案(五)以上四議案を拍手で承認した。

議案(六)平成十九年事業計画案を林田眞成専務理事が読み上げて説明した。今年度の涅槃会は第三十三回で南・港南区仏教会が当番になる。平成二十年の二月に予定をしている。参加行事の(3)県仏教会活動に参加協力の項で、全日仏の第四十回仏教徒会議神奈川大会開催に当り、県仏より協力要請があった。区仏会長宛のポスター等配布があり、市仏連としても絶大な協力をしたいので、会員各位もご支援の程、直しくお願いをする。時局対策委員長の佐藤師の発言。草の根運動でリーフレットは何度

となり、依頼される事も多くなる。我々、寺院側は情報不足で戸惑ってしまう。との質問があった。霊園の事務所から読経依頼があった。広げるのに上手に利用すべき、情報を確実する意味でも必要かと思う。架空話もあるのか。委託業者より市仏連へ霊園で読経依頼、つまり墓前での読経派遣僧、契約申請だったので断った。当会は縁をもつて檀信徒を増やすために市仏ネットを作った。

一端、各寺のお寺で法事をして納骨するのが筋だといったら、それは利用者が求めていないそうだ。中田市長と個人的に話しあった。その市営となった経緯は公園より墓地の方が収入が増すのでドリムランドを買収した。「時局」と「市仏ネット」の二つの併用は無理である。市営墓地は言うなれば倉庫業で宗教と別個だ。現メンバーには無責任だ。現実には事務所で売っている極小の供花しか上げられない。線香、塔婆はもつてのほかなのだ。納骨芝生墓地は一つ入る穴口で深いカロートの中へテープ状態で縛って下ろし納骨し、六個骨壺が入られるスペースとなっている。市仏連でドリムランド跡地霊園対応の「窓口」はつくりにくい。必要があれば市の立場の人に来て貰い話を聞くということが一応の結論となった。



議案(七)平成十九年度予算案説明、秋山会計担当。

議案(八)理事會よりの報告、星野選考委員長。二月二十四日、第一回、二名欠席、仕事内容を承けたまわる。三月六日、第二回目、川上会長、玄野、山本両副会長の再任を要請、監事二人は新任の福田俊光師、佐伯隆義師、以上の五名を推薦することを協議し承認した。

議案(九)次期会長並びに役員改選及び承認の件、以上の(六)と(七)の件、拍手で承認した。

議案(十)川上敬吾新会長、就任挨拶、新役員紹介、各役員に任命状交付手渡す。

議案(十一)仏跡参拝旅行の件、六月十八日に秩父三十四観音札所四万部寺、廣見寺参拝、参加人数の確認。

議案(十二)横浜市積尊奉護会の件について。玄野孝善師。秋の仏

## 平成18年度 時局対策委員会報告書

自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日  
時局対策委員長 佐藤 功岳

* 事業	委員会 6回		
	業者向け 葬儀施行指示書の策定・発送(業者・会員)		
	業者からの抗議文を全会員に送付		
* 収支			
収入			
前年度繰越金	831.854 (協賛金繰越分)	431.654	
委員会費	200.000		
利子	74		
計	1,031.928		
支出			
送料 2回	89.120		
封筒・紙等	17.163		
電話代	34.391		
会場費 6回	30.000		
計	170.674		
次年度繰越金	861.254		

以上ご報告いたします  
平成19年3月31日

跡参拝提示。決定したらご協力下さい。志村会長の時、ベトナム難民救済の為作った。布教活動として利用、当初は大勢の会員を集めた。しかし高齢化で参拝旅行等に出るに出来ない。参加人数はバス一台がやっと。本当少なくなつた。市仏連がテコ入れをして会員増強を図る。もう解散したらとの声も聞くが、とんでもない。何とかいい方法で立て直し、楽しく仏教を理解する為の大切な奉護会を復活できるよう智恵と支援をお願いします。

議案(十三)その他。能登大地震義援金を送る事決定。以上、市川南・港南区仏会長の名議長のもとに当局提出の諸議案が慎重審議され、無事に総会を円成することができた。閉会の言葉を山本信行副会長が述べて第三十四回総会を終了した。

横浜市仏教連合会 平成19年度歳入歳出予算書

歳入金 2,312,858円
歳出金 2,312,858円
差引額 0円
(自平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 前年度予算額, 差引増減. Rows include 1. 会費収入, 2. 雑部金, 3. 過年度収入金, 4. 前年度繰越金, and a total 合計.

横浜市仏教連合会 平成18年度収支計算書

収入金 2,274,755円
支出金 1,719,897円
差引額 554,858円
(自平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 差引増減. Rows include 1. 会費収入, 2. 雑部金, 3. 過年度収入金, 4. 前年度繰越金, and a total 合計.

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 前年度予算額, 差引増減. Rows include 1. 総務費, 2. 需要費, 3. 事業費, 4. 助成金負担金, 5. 雑支出, 6. 予備費, and a total 合計.

平成19年5月16日

上記のとおり歳入歳出の予算案を提出致します。

横浜市仏教連合会 会長 川上 敬

会計 柳下 賢明

会計 秋山 智隆

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 差引増減. Rows include 1. 総務費, 2. 需要費, 3. 事業費, 4. 助成金負担, 5. 雑支出, 6. 予備費, and a total 合計.

次年度繰越金 554,858円

平成19年5月10日

上記のとおり収支計算書を提出致します。

横浜市仏教連合会 会長 川上 敬

会計 橋下 賢明

会計 秋山 智隆

監査の結果相違ないことを認めます。 監査 丸地 良信

監査 森岡 隆神

第四十回

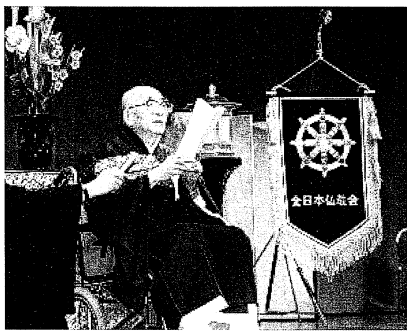
全日本仏教徒会議

神奈川大会開催

十一月十九日〜二十日に、第四十回全日本仏教徒会議神奈川大会がパシフィコ横浜を会場に行われた。この大会は、二〜三年に一度行われる大会で、日本の仏教界の一大イベントと言える。この度、神奈川県が当番として行われた。

初日は、僧侶が集まって、現在仏教寺院が果たすべき役割・問題点についてパネルディスカッションを行った。二日目は、チベットのダライラマ法王をお招きして講演をいただいた。

会場には、現在の全日本仏教会の会長でもあり、本大会総裁の曹洞宗管長大本山総持寺貫主大道仙猗下が、両日とも出席され、ご挨拶いただいた。



第一日目

基調講演は、駒沢大学前総長奈良康明先生による「草の根的対話の提唱」という内容でお話し頂いた。論旨は、「仏教の社会観は『縁起の社会観』とも言え、個と全体の関係は、単なる個の集合体が全体なのではなく、個同士の関わり合いの総体が全体である。関わり合いを助けるカギとなるのが慈悲であり共感、共生である。この具体的な実践が草の根的対話である」というもの。

続いて行われた分科会は四つに分かれて行われた。  
第一分科会は「アジアの平和と仏教徒の役割」と題し、副題として「日本仏教青年の可能性を求めて」というテーマで行われた。

提言者 坂本観泰

座長 上田紀行

パネラー ギヤナ・ラタナ・テラ、クンチョック・シタル、本多静芳の各師  
第二分科会は、「少子高齢化社会と寺院のあり方」であった。

提言者 中島隆信  
座長 志村碧涯  
パネラー 平野仁司、藤原成一、上川陽子各氏

第三分科会は、「現代社会における仏教葬儀のあり方」で、副題として、「本来の機能を失いつつある現代の仏教葬儀」というテーマで行い、当市仏連の時局対策委員会による市仏ネットの取組を紹介しながら話し合いが行われた。



提言者 佐藤功岳  
座長 川上敬吾

パネラー 三浦公正、小谷みどり、芝崎成光の各師  
第四分科会は「生命倫理と仏教徒に問われること」、副題を「一人の一生が始まる瞬間と死ぬ瞬間はどの時点だろうか」として、意見が交わされた。

提言者 田中雅博  
座長 三宅守常  
パネラー 柴田寛彦、佐藤雅彦、中野東禅の各師

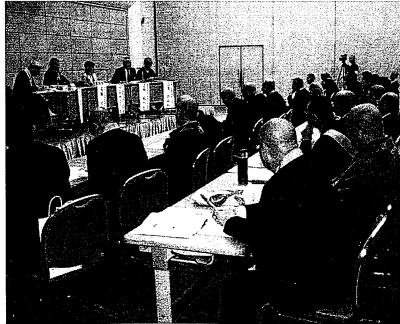
第三分科会の詳細

提言者の佐藤功岳師（市仏連時局対策委員長、日蓮宗大円寺住職）は、「本来、祈りの場であるべき葬儀が、営利目的の葬儀社主導となり、僧侶が利便さのあまりに間違つた方向に甘んじてしまっている」と、日頃より訴えかけている論を述べ、市仏ネット立ち上げの経緯を紹介するとともに、寺院が

リーダーシップを発揮し、僧侶・仏教界が、社会に向けて正しい葬儀のあり方について発信する必要性を提言された。

一方、パネリストの小谷みどり氏は、第一生命経済研究所に勤務し、生活設計論を専門として現代葬送問題に詳しい。が、氏の分析によれば、僧侶の仏教伝統儀礼の意識と、一般の葬儀ニーズとの間にズレがあり、寺の存続も危うく、檀家制度そのものの見直しも必要と語る。問題は、僧侶と葬儀社のレベルの業界内の問題ではなく、社会全体が何を求めているかを多角的に考えて見直す必要があると強調された。

また、県内の葬儀社を運営する傍ら、全日本葬祭業組合の理事を務める芝崎成光氏は、現代的な諸事情から、古来の葬送文化の威厳や価値観が失われてしまったことを嘆かれた。そして、僧侶が葬儀の意味や大切さの説法を行ってほしいと懇願された。それだけ、



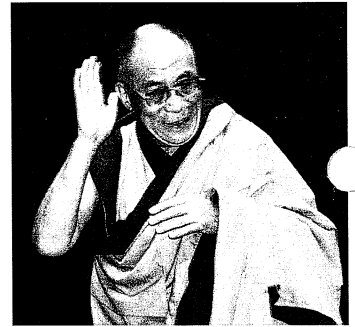
話をされない僧侶が多いことを強調された。僧侶不要、葬儀無用の風潮に対して、葬儀社と僧侶が話し合いの場を持つ必要があることを提案された。

さらに、三浦公正師（当市仏連時局対策委員、時宗浄光寺住職）は、利便性に流れる葬儀が形骸化していることに危機感を持ち、宗教の持つ心性を取り戻すべきことを強調された。信者で無いのにキリスト教会で結婚式を行うことに、批判する資格はないはず、なぜならば、信心が無くフアッションで仏式の葬儀を行うことに甘んじている僧侶も同罪だからと指摘する。座長の川上敬吾師（市仏連会長、臨濟宗松蔭寺住職）は、まとめとして、宗教意識の低下した現代において、葬儀社の助力は借りながらも遺族の心を癒し、安心を与える主役は僧侶である、そのような危機感と問題意識を持つて対応すべきであることを強調された。他の分科会においても、有意義な会であったとの報告があった。

この日のために、全国から、宗派・年齢を超えて多くの僧侶が集まり、明日の日本仏教のために熱く語る姿があり、危機感を感じる同士の熱心な議論が展開された。

**第二日目**

二日目は、記念式典とダライマ講演。とにかく、今、世界的に注目を浴びているノーベル平和賞受賞者のダライマ師のためには大変な警備で当日五千人余の聴衆の持ち物検査、ボディチェックが入り口で行われた。空港並だ。会場に現れたダライマ師は、とにかく、気さくでユーモアがあつて一気に親しみがわいてくる。会場に入場するときから、あちらこちらに目を配り、全体というよりは、特定の一人ひとりに指を指し、手を振り、合掌して挨拶された。華厳経の「一即多、多即一」の教理のように、正にそれを実践されて



いるように感じた。五千人の中の一人に、真剣に挨拶をする。それが他のすべての人に伝わる。多の中の一を大切にすることは、多を大切にすることにつながる。そんなことを実践されているように思えた。



講演は、椅子に座禅をして、通訳を介して、まとまりごとにおよそ二時間、「信ずる心と平和」と題して行われた。はじめはチベットの語で、会場に英語のできる人が多かつたことから、途中からはかなり堪能な英語で話された。講演中は、照明のライトが気になるということで、アメリカの友人にいただいたというサンバイザーを着けられ、茶目つ気ぶりも披露。通訳を介しての内容で強く痛感したことは、仏教という宗教を、いかに現代生活に生かすかという配慮であった。

とかく日本における仏教は、寺院環境・葬儀・墓参・供養といった具体化した慣習からイメージして捉えてしまうが、信仰、哲学、あるいは科学といったように、仏教が身近な生活に役立つような側

面から説いていることが印象的であった。

**訳文抜粋**

「科学者は物質の情報を提供し、仏教は精神的な情報を提供する。この両論が相互に働くことにより健康がもたらされるのです。」

「近代科学はたくさん重要な情報を提供してくれているが、精神的な心のメカニズムや身体と感情との関係については、仏教が長い歴史の中で、はるかにたくさん情報を提供してきているのです。信じる信じないに関わらず、仏教は、私達の生き方に役立つものなのです。」

「たとえばこの会場には約五千人が居りますが、肉体面、精神面では全く同じ人間であります。私たちは同じ人間であり同じ可能性を秘めています。サンスクリット教典の中では、命あるもの全てに仏性が備わっているという考えがあり、縁起の考えがあります。私た



ち一人ひとり相互関連を持ち、この世に存在しているというものです。この考えは仏教独自のものといえます。」

「仏教徒であるならば仏教に基づいた教えを実践していただくさい。主に修業者であるならば、慈悲の心に基づく菩提心を育むこと、哲学的見解としての縁起を理解し実践をすること、の二つを大切にしたいだくことをお願いいたします。」

「たように、仏教の説く、縁起・無常・慈悲・智慧の思想を自分の哲学・宗教として生かすべきことを熱く語られた。

**終わってからのエピソード**

来賓予定の奥知事、中田横浜市長、そして数日前までに極秘裏で出席が予定されていた小泉前総理が、ダライマ警護の関係で、急遽取りやめになったとか。とにかくスケールの大きな大会でした。関係の皆様、お疲れ様でした。

**大会会長御挨拶**

この度、第四十回全日本仏教徒会議神奈川県大会が、おろしも開港百五十年祭を迎える横浜の地で開催する運びとなり、今大会総裁として、まず、ご参加いただきました皆様様に感謝申し上げる次第であります。

全日本仏教徒会議は、昭和二十八年八月の第一回より、当初各宗派のご本山を会場とし開催され、その後、第八回よりは、全日本仏教会に加盟を頂いております各都道府県仏教会が主体となられ、爾来五十有余年の永きにわたり、関係各位のご尽力により執り行われてまいりました。

今回、「地域の縁、アジアの縁―共生をめざして―」を大会の主題とし、また、特に記念として、ダライマ師14世法王より「信ずる心と平和」と題して、講演をいただく良縁にも恵まれており、一人でも多くの仏教徒が、世界の平和と共生について自らの問題として深く考える契機となり、共に力を合わせて具体的実践へと展開されていくものと確信いたすものであります。

今後も引き続き、全日本仏教徒会議の益々の発展のために、皆様の格段のお力添えをいただきますようお願いを申し上げます。

平成十九年十二月十日  
財団法人 全日本仏教会  
会長 大道 晃仙

# 第二十四回春の仏跡参拝旅行

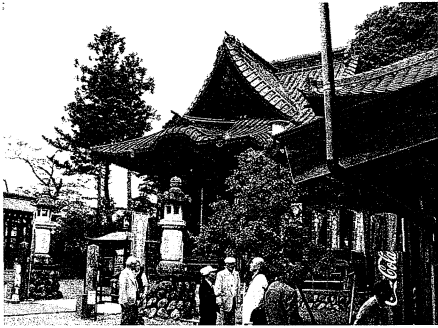
## 秩父霊場参拝

横浜市仏教連合会・釈尊奉讃会の春の仏跡参拝旅行は、六月十八日に、秩父霊場の各寺を訪ねて行われた。

梅雨時らしい曇り空の中、朝七時に天理ビル前に集合。顔見知りの毎回参加されるお仲間、久しぶりにお会いする方、初めて参加されるお友達……。この会ならではの和やかな雰囲気の中、玄野市仏連副会長の挨拶を皮切りに、バスは首都高を抜け緑濃き関越道へと順調に進み、八時半には高坂P・Aで休憩し、花園I・Cを降りて一路秩父へ。

はじめの参詣寺院は、秩父一番札所 誦経山四萬部寺(しまふじ)。

山門をくぐると、入母屋造りの美しい観音堂をはじめ、いくつもの古い建物が重なり合い、いかにも



観音霊場らしい雰囲気を感じさせ、巡拝の参詣者で賑わっていた。一同、本堂で般若心経を唱え、巡拝の発願とする。

「ありがたや ひとまきならぬ法の花 教は四万部の 寺のいにしえ」

と、御詠歌に詠われるこの寺は、奈良時代に行基菩薩の縁により創建され、法華経四万部を書写して地中に納めたことが寺名のいわれとされている。また、八角形の輪蔵の施食殿では、毎年八月二十四日に大施餓鬼会が行われることでも有名だそうである。

続いて、秩父の多くの寺院を末寺に持つ拠点の寺、曹洞宗廣見寺を訪れた。読経の後、川上市仏連会長、美濃口奉讃会副会長の挨拶に続き、ご住職の町田廣文師にお話をいただいた。その中で、良寛

様が心の師と仰いだ大面宗龍禅師についてご紹介いただいた。宗龍禅師は、江戸時代中頃、当時の住職らとともに河原の平たい石に大般若経石書写の結願を立て、数千枚の石経を有縁の縁者によつて石室に納める百日修行が行われたそうである。この石室は、現在、埼玉県の史跡に指定されている。

このように秩父は、三十四観音霊場をはじめ、多くの信仰の文化を形成してきたと言える。市内どこからも眺められる石灰岩の宝庫である武甲山は、痛々しい山容を見せているが、多くの建築資材に貢献してきた地であるという事実以上に、深い信仰の文化が集積された故郷であることを実感する。

廣見寺では、同行の市仏連寺院住職のご友人で十九番龍石寺のご住職より、木彫りの蛙のキーホルダーを全員にいただき感激した。



### 事務日誌

19.5.11	役員会(東照寺)
19.5.16	第34回総会(西有寺)
19.5.27	奉讃会総会(東照寺)
19.6.15	慰霊堂出仕南港南区
19.6.18	第24回春参拝(秩父)
19.6.28	会報原稿依頼状発送

19.9.9	役員会(勸行寺)
19.9.12	全日仏参加協力発送
19.10.5	慰霊堂出仕神奈川区
19.10.10	奉讃会だより発送
19.10.26	会報編集会議(東泉寺)
19.11.19	全日本仏教徒会議
19.11.20	神奈川大会

## 秩父三十四観音札所

第一番	誦経山四萬部寺	曹洞宗	第十八番	白道山神門寺	曹洞宗
第二番	大棚山真福寺	曹洞宗	第十九番	飛湖山龍石寺	曹洞宗
第三番	岩本山常泉寺	曹洞宗	第二十番	法王山岩之上堂	臨濟南派
第四番	高谷山金昌寺	曹洞宗	第二十一番	要光山観音寺	真言豊山派
第五番	小川山長興寺	臨濟南派	第二十二番	華台山童子堂	真言豊山派
第六番	向陽山ト雲寺	曹洞宗	第二十三番	松風山音楽寺	臨濟南派
第七番	青苔山法長寺	曹洞宗	第二十四番	光智山法泉寺	臨濟南派
第八番	清泰山西善寺	臨濟南派	第二十五番	岩谷山久昌寺	曹洞宗
第九番	明星山明智寺	臨濟南派	第二十六番	萬松山円遊寺	臨濟建派
第十番	万松山大慈寺	曹洞宗	第二十七番	龍河山大淵寺	曹洞宗
第十一番	南石山常楽寺	曹洞宗	第二十八番	石龍山橋立堂	曹洞宗
第十二番	仏道山野坂寺	臨濟南派	第二十九番	笹戸山長泉院	曹洞宗
第十三番	旗下山慈眼寺	曹洞宗	第三十番	瑞竜山法雲寺	臨濟建派
第十四番	長岳山今宮坊	臨濟南派	第三十一番	鷲窟山観音院	曹洞宗
第十五番	母果山少林寺	臨濟建派	第三十二番	般若山法性寺	曹洞宗
第十六番	無量山西光寺	真言豊山派	第三十三番	延命山菊水寺	曹洞宗
第十七番	実正山定林寺	曹洞宗	第三十四番	日沢山水潜寺	曹洞宗



葬儀の形骸化が指摘され、無宗教での葬儀が増加する傾向の日本。旧来の檀家制度も、葬儀・仏事に多くを依存してきただけに、寺の存続維持に影響することは必須だ。過日行われた全日本仏教徒会議の第三分科会のパネリスト三浦公正師は、僧侶が葬儀の意味を布教せず、ファッションとしての宗教不在の仏式葬儀を是認してきたことを指摘して、利便性に流されるままがために、最も大切な宗教の心性を失いつつあると警鐘された。

一方で、とりあえずは仏式の葬儀、墓地納骨、追善供養というパターンの利用率も高く、全国にコンビニの二倍の数があるという寺院空間が地域に貢献できる可能性も高い。深い仏教哲理の殿堂としての価値はもとより、緑自然環境といった癒しの場として、又、堂宇境内という空間としての資源価値は高いはずである。

そこで、この紙面では、「仏教が社会に求められていること」と題して、寺院、仏教にまつわる動きの情報のいくつかを紹介しします。

## 「世界仏教」への期待

上田 紀行

仏教は「期待される宗教」である。私はスタンフォード大学の仏教学研究所に在籍し、仏教に対する高い期待に驚かされると共に、「世界仏教」と「日本仏教」の温度差を痛感し、変革の必要性を感じた。

仏教が注目される第一点は、ア

メリカ国民の多くは、仏教の寛容の精神、平和主義に強い期待を抱いていること。第二点は、個人の苦悩に向かい合い、一人ひとりの生きる意味を深化させるといふ仏教像があるということ。特にしがらみとしての教会型の宗教から、個人が自由に自己探求を行える宗教としての仏教に注目している。

こうしたアメリカの期待とは、逆の構図が日本仏教には存在し、日本においても、個人の苦悩に向かい合う仏教への転換が求められているのではないか。つまり、「イエ」の儀式のみに立脚する仏教の限界は明らかである。

アメリカの禅道場や仏教団の

## 特集 (話材紹介)

### 今、仏教が社会に求められていること

雰囲気は、日本とは全く異なり、日本の修行道場のような軍隊型組織は皆無であるし、女性指導者も多い。日本に女性僧侶が少ないことが不思議という指摘を受ける。

そして、何よりも日本との大きな違いは、アメリカの仏教者たちが、仏教を、弱肉強食の物質主義的な社会における、スピリチュアリティ(霊性・精神性)の復権の中に位置づけていることだ。仏教はまさに個人を救済し世界を救済する、大きな時代的な責務を負っているものとして認識されているのである。

(読売新聞論壇H18・5・31)

## 「社会とかかわる仏教」に可能性

岡野 正純

国際仏教交流センターの岡野正純氏(孝道教団)は、「日本伝統仏教におけるエンゲージドブuddiズムの可能性を探る」と題して発表した。「社会参加仏教」「社会をつくる仏教」などと和訳される代表的な人物や運動として、ベトナムのティック・ナット・ハン、インドのアンベードカル、スリランカのサルボダヤ運動、チベットのダライラマ十四世、タイのブツダターサ比丘などを列挙した。

エンゲージドブuddiズムは、「近代化の中で生まれてきた新しい仏教の形」であり、多くの活動は、「新しい面もあるが、基本的には釈尊から始まる伝統を継続するもの」と位置づけた。その特徴として次の四点をあげた。

- ① 平和主義
- ② カリスマ的リーダー
- ③ 社会活動・政治活動
- ④ 中道

では、日本はどうか。岡野氏は、自殺問題や青少年問題・ジェンダー貧困・平和・環境・国際支援などに可能性があるとし、実際にいくつか取り組んでいる事例を紹介。日本のエンゲージドブuddiズム

## 仏教テレフォン相談分析

仏教情報センター事務局

開設23年を迎えた仏教情報センターでは最近一年間(平成17年度)の電話相談の分析を発表した。相談総件数四、四六五件のうち最も多かったのが「人生相談」に関する内容で、一、一五〇件。特にうつ病など病、人生に関わること、家族親族に関する悩み、金銭トラブルなどと相談の範囲も広い。そして、この内容の相談者は常連となる傾向が強く、リピーターが多いのだそう。

二番目に多い相談が、葬儀・供養に関する内容。三番目が納骨・墓地・墓石に関する相談、四番目が仏教の常識やマナーに関する内容。そして、仏教の教義や信仰の意味についての相談は五番目となっている。

開設当初から比べると、電話相談窓口は、公共機関のものや民間のもので急増し、しかも、専門に分かれて細分化する傾向にある。相談者が相談したいことを専門家が答えられるのだから便利になった訳である。が、仏教情報センターに寄せられる相談は、

	件	%
A 人生相談	1,150	25.8
B 信仰の意味、教義、仏教文化や学問	454	10.2
C 葬儀、法要、供養、永代供養	599	13.4
D 戒名、法名	153	3.4
E 寺院、僧侶・既成教団の在り方や運営	383	8.6
F 仏教の年間行事、特殊法要	153	3.4
G 家庭での祀り方やお勤め	277	6.2
H 仏教の常識やマナー	449	10.1
I 祈禱	33	0.7
J 占い、迷信、靈感高法など	162	3.6
K お骨・埋葬・墓地・墓石	551	12.4
L ペット・針・人形などの供養	29	0.6
M その他時事問題や仏教以外の行事など	72	1.6
	4,465	

意外と仏教の専門的内容よりも人生相談の一般的な悩みが多い。その方々の多くは、「どこでも話をじっくりと聞いてくれない」、「そういう複合的な悩みは仏教情報センターで聞いてもらえん」と紹介されるという。現在、仏教情報センターでは、月々金までの昼間に各宗派が曜日ごとに担当して、二台の電話に延べ百人ほどの現職僧侶が相談に当たっている。医療や経済、訴訟の問題などの相談に対して、専門外であることを告げると、「そういうところは既に問い合わせているが納得のいく話は聞けない、僧侶の方に是非とも聞いてほしいんだ」という返答があるという。

相談所の数が増えても、受け止めてもらえない人や、その相談所のカテゴリーに当てはまらない方もいる。特に人生の悩みはそう単純なものではないのだ。仏教テレフォン相談は、そういった網の目から漏れた方々への救いの場所にもなっていることが統計から垣間見える。(仏教情報センター機関誌「仏教ライフ」18・9・20号)



**金沢区**  
 新年度を迎え、任期満了に伴う役員改選が行われ次のとおり決定しました。(任期は二年間です。)

- 会 長 志村碧窟 (金龍院)
- 副会長 友繁照純 (正法院)
- 会 計 六浦弓丸 (長生寺)
- 事務局長 小西孝裕 (金蔵院)
- 各行事主任
- 降誕会 豊田裕爾 (宝樹院)
- 文化講演会 菊地茂雄 (禅林寺)
- 交通安全祈願会 鹿野融弘 (三宝寺)
- 機関紙発行 佐伯隆道 (宝珠院)
- 寺務研究会 丸山石栽 (泥牛庵)
- 古寺参拝会 須方審證 (光明院)

- 平成十九年度に既に実施された事業及び今後予定されている行事は次のとおりです。
- 定例総会
- 五月二十三日(水) 金龍禅院
- 第五十七回 仏教文化講演会
- 八月二十六日(日) 金沢公会堂
- 講演「あなたも人生の料理人」
- 成田市長寿院 篠原鋭一師
- 実演「ハワイの伝統文化」フラ
- フラ・ハラウエイ渡辺さん
- 第四十六回交通安全祈願会
- 十月二十七日(土) 葉王寺(寺前町)
- 寺務研究会
- 十一月二十六日(月) 会場未定

**港北区**

私共港北仏教会では、四月七日毎年恒例のはなまつりを菊名・妙蓮寺にて開催しました。当日は好天に恵まれ、皆様のご協力により、会場が満席となる約120名ものお客様が参られ、本年は、妙光結社、瀬野泰光上人による大変ためになる法話を頂き、又、本年も例年通り、お忙しい中、落語家・柳家喬太郎師匠にもお越し頂き、御高座を賜り、ご来場者の皆様に春の楽しいひと時をお過ごし頂けました。

又、六月二十日には、恒例の、研修会を開催致しました。本年は、阿部陽一様の御取計らいで、神奈川県民部学事振興課から、お二人の講師をお招きして、「寺院規則について」というテーマで、ご講演を頂き、質疑応答では、出席者との熱心な質疑が繰り広げられました。



報広告の勧募の募集等、会員様より多数のご協力を頂き、微小ながら貢献することが出来、和やかな雰囲気の中、宗派を越えた素晴らしい交流を日々育んでおります。

**栄区**  
 今年の一月十七日、例年のように「大震災救援」托鉢募金を行っている所へ、一人の女性から「中越へも届きますか」と尋ねられた。馬鹿正直に、阪神神戸へ送りますと答えると、残念そうにして立ち去っていった。

栄区仏では、年二回の托鉢活動しかできないが、地震国日本の現実には、各地に発生しており、被災地の人々には心細い思いで救援の手を待っている。報道される姿には胸を痛めているが、今は個人個人で対応するしかないのが、残念である。

各地で起きた災害が報じられると、すぐに街頭募金に立つ若者達を目にする。彼等を疑うわけではないが、不信感をぬぐいきれない。それに引き替え、我々仏教僧が、会名を明示して身分を正し、世間の人々の心に響く鐘をならすことは、慈悲行そのものである。

栄区仏の活動は未熟そのものであるが、今後の道として、社会の動向に機敏な行動をとれるようにしていきたいものであると、話し合いを深めている。

**一県慰霊堂出仕当番表**

- 平成20年4月 磯子区
- 平成20年6月 港北区
- 平成20年10月 金沢区
- 平成20年11月 中区

**編集後記**

◎総会で横浜市が習得した元横浜ドリムランド跡地の市営メモリアルグリーン公園の情報を、線香もあげられない。芝生墓地、壁型合葬墓はロッカ形式で約一万五千器収容能力があり、現在五〇〇器が使用され、七年後まで毎年募集するそうだ。樹木葬は三種類の木が植林され林となっている区画に、骨壺から出さずに埋葬する。これでは本場の樹木葬といえるのだろうか。樹木葬を未来型として最理想ともてはやす評論家に問いたい。

◎九月二十四日にミャンマー国で僧侶を中心にした反政府の大規模なストがあり、軍事政権が弾圧し僧院を急襲し五〇〇人の僧侶を拘束する非常事態事件が起きた。現場で取材していた日本人カメラマン永井氏が至近距離から銃でうたれ死亡した。仏教徒として胸が大きく痛む思いで報道を注視している。犠牲者に合掌黙祷を捧げた。

◎日本生命倫理学会が「死生の文化と生命倫理」と題してシンポジウムを開催した。生命倫理と宗教文化の関係を問う内容で、問われる「医療は煩悩か」、科学の「欲望」を制御できるか。「欲望」とは、期せずして宗教者によるワークショップのキーワードでもあった。懐疑論もある中で、宗教は「欲望」のコントロールのため何らかの問いかけができるのかどうか、問われているのは宗教の底力だ、という新聞記事に注目した。ウツ病、自殺者が増大し、いとも簡単に殺人が起こされている。世間と自己の深い洞察が仏教のはじまりであり究極であろう。俗語、真諦、自利利他、四無量心、四摂法の実践、少欲知足に仏教者は立脚すべきであろう。お布施を差しあげるのではなく、お経料を取られるというようにしたのは、とりも直さず寺側の態度であろう。猛省し、恥ずべきだ。

◎七月十六日(月)午前十時十三分頃、新潟県上中越沖を震源とする震度六強の大地震が発生した。新潟中越沖地震の深さは十七キロ、マグニチュードは6.8と推定される。柏崎市が震源に近いせいもあり、大きな被害にあつた。寺院も多く被災した。本当にお気の毒で心よりお見舞いを申し上げ、早期の復興を祈念申し上げるのみである。八月は大変な猛暑で九月十七日には東北地域は豪雨に見舞われ、大災害となった。地球はどうなったのでしょうか。我々、人間が環境破壊の大元凶なのだが、各国の欲望の思惑があつて、京都議定書が

おほらかに もろての ゆびを ひらかせて おほき ほとけは あまたらしたり(会津八二)